瑞二だより

発　行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日7月1日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

6月朝礼より（6月18日）

皆さん、おはようございます。

今日の朝礼は2つの話をします。まず一つ目は、私たちの学校に通う3年生の生徒2人が見せてくれた、心温まる行動についてお話ししたいと思います。

それは、6月4日の夜のことです。区内の歩道で、地域にお住まいの男性のお年寄りが、体調を崩して倒れてしまいました。しかも、自転車も倒れて足元にかかってしまっていたそうです。そのとき、たまたま通りかかったのが、3年生のHさん・Yさんの2人でした。2人は、倒れているお年寄りに近寄り声をかけ、まずは無事かどうかを確かめました。幸い、意識はあったものの、起き上がっても足元がふらついてしまっていたそうです。

2人は、「このまま一人で帰ってしまうのは危ない」と判断し、この方に付き添って、ゆっくり、ゆっくりと、ご自宅まで送り届けたそうです。その後、ご自宅に到着すると、この方は2人の名前と学校名を尋ねたとのことです。そして、後日本校にわざわざ来校され、教員にこうお話しされました。「心優しい生徒さんたちに助けてもらって、本当に助かりました。大事に至らず、感謝の気持ちでいっぱいです。」HさんとYさんにとても感謝していました。

私たちは日ごろから皆さんに、「思いやりをもって行動しよう」「困っている人がいたら助けよう」と伝えています。しかし、それを実際の場面で行動に移すのは、簡単なことではありません。2人の行動は、まさに勇気と優しさ、そして判断力の3つがそろったすばらしい行いでした。

どうか皆さんも、日々の中で「誰かの役に立つ心」を持ち続けてください。

2つ目の話です。新しい学年が始まってから初めての定期考査、よくがんばりましたね。緊張の中で問題に向き合った1年生、勉強と部活動との両立に悩みながら努力を重ねた2年生、そして進路に向けての第一歩としてこのテストに臨んだ3年生、それぞれに本当に価値ある取り組みでした。

さて、今日は「なぜ定期考査を行うのか」というお話をしたいと思います。テストが終わってホッとしている人もいれば、点数が気になって落ち着かない人もいるかもしれません。そして中には、「どうしてこんなに緊張することを、何度もやらなきゃいけないの？」と思っている人もいるでしょう。

私たちが定期考査を行うのは、皆さんに点数をつけるためだけではありません。もちろん、テストの結果は学習評価の一部として大切です。でも、それはあくまでも“全体の一部分”に過ぎません。定期テストの本当の目的は、皆さんがこれまで授業や家庭学習で学んだ内容が、どれくらい理解できているか、活用できる力がどのくらいついているかを、客観的に確認することにあります。

つまり、テストは“学んだことのふりかえり”の機会です。今の自分がどこまでできているのか、そして何がまだ身についていないのかを知るための大切な道しるべ。それをもとに、「次は何をどのように学べばよいか」を考え、行動するためのきっかけとなるのです。

学校では、皆さんの学びを評価するときに、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という3つの観点を大切にしています。テストの点数は「知識・技能」や「思考・判断・表現」の一部を測る場合が多いですが、それだけで皆さんの力を評価することはありません。テストでは測ることが難しい「主体的に学習に取り組む態度」は、授業中に友達と意見を交換しながら考えを深めたり、自分の言葉で説明しようと努力したりする姿勢、さらに毎日の授業を大切にし、こつこつと課題に取り組む態度などをいろいろなレポートや振り返り、作品などから評価しています。

今回のテストで満足のいく結果が出た人は、自信を持ってその学びをさらに深めていってください。一方で、思ったようにいかなかった人も落ち込む必要はありません。テストの結果は「終わり」ではなく、「スタート」です。これからどう頑張るか、それが何よりも大切なのです。

先生たちも、皆さん一人ひとりの成長を応援します。また、皆さんがそれぞれの自分の学習方法を見つけ、学力を着実に伸ばしていくことを期待しています。

6組合同宿泊学習を終えて（6月25～27日）

本校の特別支援学級の生徒たちは、6月25日より2泊3日、区内の特別支援学級設置校と合同で連合宿泊学習を行いました。今回の活動は、静岡県と神奈川県箱根地域を訪れ、自然や文化に触れながら、他校の仲間たちとの交流を深め、集団生活のルールや協力の大切さを体験的に学ぶことを目的としています。

初日の出発時は大雨に見舞われましたが、子どもたちは元気にバスへ乗り込み、静岡県の「酪農王国オラッチェ」へ向かいました。現地では牧場の動物とのふれあいや牛乳工場の見学を行い、酪農について楽しく学ぶことができました。その後、グループに分かれてアイスクリーム作りに挑戦しました。協力しながら材料を混ぜる姿や、完成したアイスを嬉しそうに食べる姿が印象的でした。宿泊先は「箱根高原ホテル」で、大露天風呂付きの温泉に入浴し、緊張をほぐしながら一日を締めくくりました。

翌朝はホテル横の広場で朝礼とラジオ体操を行い、気持ちよく一日をスタートしました。2日目は「森のふれあい館」にて自然に関する展示を見学し、クイズラリーを通してグループで協力する楽しさを実感しました。午後は「箱根水族館」の見学や「箱根園」でのお土産購入などを行いました。霧のため予定していた芦ノ湖の海賊船乗船は中止となりましたが、その分、落ち着いた時間の中で仲間との交流を深めることができました。夕食後は体育館でキャンドルサービスとフォークダンスが行われました。他校の友だちと輪になって踊る子どもたちの笑顔が会場にあふれ、忘れられない思い出の一場面となりました。

最終日は「生命の星・地球博物館」で地球や生命の歴史について学び、「鈴廣かまぼこの里」で昼食をとって、無事に学校へ戻ってきました。移動は4台のバスを利用し、行程中大きな怪我や病気もなく、全員が元気に過ごせたことは何よりでした。生活面では、食事をしっかり摂り、夜も早く就寝し、バスの中でも静かに過ごすなど、自立心と周囲への配慮が感じられる場面が多く見られました。一方で、話を聞く際の姿勢などに課題も見られましたが、それもまた今後の成長への糧となることでしょう。

保護者の皆様から離れ、友だちと寝食を共にする中で、子どもたちは不安を乗り越え、たくましく成長する姿を見せてくれました。この宿泊学習で得た経験を、今後の学校生活や学びにつなげていけるよう、引き続き丁寧に指導を続けてまいります。改めて、保護者の皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。